

タイトル「2020年度 経済学部シラバス」、フォルダ「2020年度 経済学部シラバス」  
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	東アジア経済発展論		
担当教員	金澤 孝彰		
対象学年		クラス	E1
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位区分	
授業形態	講義	単位数	2
準備事項			
備考			
科目名(英語表記)	Economic Development in East Asia		
授業の概要・ねらい	東アジア地域はこれまでいくつかの経済危機に直面しながらも経済発展をとげてきた。本講義では、こうした経済発展プロセスの把握を手始めに、東アジア地域の経済的ダイナミズムに焦点をあてる。また、将来的な東アジア地域統合や共同体の実現可能性を念頭におきつつ、現時点で東アジア地域が抱える経済構造問題やそれに付随する政治・社会問題についても考察していく。		
授業計画	本講義主要部分は指定教科書(1)にもとづきおおむね下欄の内容にそって計15回進めていきたいと考えている。ただし、この教科書が発行されてから3年近く経過しているため、比較的最近の動向については指定教科書(2)と各週の「日本経済新聞」のアジア経済関連紙面記事の紹介で補っていく。 第16回に単位認定試験を行う。		
	回	内容	
	1	概論(主に講義の進め方をめぐって)	
	2	東アジアの経済成長	
	3	工業化政策と経済発展	
	4	経済格差と所得格差	
	5	東アジアにおける国際的生産ネットワーク	
	6	東アジアにおける産業集積	
	7	国際金融環境と東アジア経済	
	8	東アジアにおける金融システム	
	9	東北アジアの経済発展モデル	
	10	東南アジアの経済成長経路	
	11	東アジアの移行経済	
	12	東アジアの経済統合	
	13	中国経済と東アジア	
	14	東アジア地域が抱える経済的課題	
15	総括		
到達目標	受講学生各自が、現状の東アジア地域の経済をめぐる諸問題の理論的、制度的、歴史的背景を把握し、具体的に説明できること。この授業を通して卒業後のキャリアの実践に役立てようとする。		
成績評価の基準と方法	第16回で実施する単位認定試験の成績を80%とし、その他の講義時に不定期的に出す必修課題(レポート)および自主レポートの出来を20%とする。		
教科書	(1)三重野文晴・深川由紀子(編)『現代東アジア経済論』ミネルヴァ書房、2017年 (2)後藤健太(著)『アジア経済とは何か―躍進のダイナミズムと日本の活路―』中央公論新社(中公新書)2019年		
参考書・参考文献	遠藤環・伊藤亜聖・大泉啓一郎・後藤健太(編)『現代アジア経済論―「アジアの世紀」を学ぶ―』有斐閣、2018年		
履修上の注意・メッセージ	毎回出席すること		
履修する上で必要な事項			
受講を推奨する関連科目	ワールドエコノミー、開発経済学、現代中国経済論、通商政策。とくに開発経済学の単位未修得者は今期開講分を履修しておくことが望ましい(∵本講義にて使用する教科書では開発経済学で取り扱う章も含まれているため)		
授業時間外学修についての指示	2冊の教科書の内容と関連させて、東アジア地域での経済的動向に関する各種報道を整理し、自主的にレポートを作成するよう自らに心がけること。		
授業理解を深める方法	・2冊の教科書を照らし合わせてどの辺が関連しあっているかに注意しながら読み進めていくこと ・「日本経済新聞」の東アジア地域経済関連紙面(国際面、アジアBiz面、経済教室面など)を読む習慣をつけること。		
その他連絡事項			
オフィスアワー	前期:火曜日16時30分～18時00分 訪問先:西3号館 金澤研究室 ↑		
科目ナンバリング	E338001GJ,E338001SJ		